

平成28年度四国地域エネルギー・温暖化対策推進会議 支援プロジェクト

資料3

	プロジェクト名及び概要	応募者名・団体名	支援してもらいたい内容
No.1	うどんまるごと循環プロジェクト2016 香川県内の讃岐うどん店は600軒以上といわれ、うどんに使用される小麦量は年間約6万トンとされている。そのうち店舗や工場では5～10%が廃棄されているとされ、小麦換算で3,000～6,000トン、水分を含んだうどん換算ではそれ以上が廃棄されている。 これまで、廃棄うどんは養豚場のエサとして利用されるほかは、廃棄物処理業者に依頼して産業廃棄物として化石燃料を使用して焼却処分されている。もっとも大規模な工場では、年間1,500トンの廃棄うどんを排出し、廃棄物処理費に2,000万円にのぼる例もみられる。 このように、香川県内ではうどん店から廃棄されるうどんが大量であり、その処分に化石燃料(A重油等)を使用していることから、大量の温室効果ガスを排出する一因となっている。 2015年度においては、プロジェクトの循環システム・モデルのうち、うどん液肥を活用し、うどんの原料となる小麦を作る「うどんでうどんを作る」プロセスを構築してきた。 こうしたことを踏まえ、2016年度は、これらの取組を更に発展させるため、①うどんまるごと循環システム・モデルの構築、②市民、学校等への全県的な普及啓発、③市民、企業、団体等による参画、④食品ロスを中心とした食品廃棄物削減を香川県や関係団体と積極的に推進することで、地球温暖化防止等に資することを目的としている。	うどんまるごと循環コンソーシアム	○イベント等における後援名義、募集のための周知・呼びかけ
No.2	香川県エネ節電所 ウェブサイト上で家庭や事業所で取り組んでいただきたい省エネ・節電行動を示し、実施できるものを選択していただくことで、省エネ・節電効果を分かりやすく数値で表している。(平成26年7月から開設) また、平成28年度から新たに、かがわ省エネ節電所に登録し、指定の申し込みのあった一定の要件を満たす事業所を「省エネ推進事業所」として指定する【省エネ推進事業所指定制度】を創設している。 【参考URL】https://www.kagawa-setsuden.jp/shouene/	香川県環境政策課	○広報など普及啓発面でのサポート
No.3	えひめツーキニストクラブ 身近な移動機会である「通勤」時に、温室効果ガスを排出しない環境にやさしい「自転車」を利用することは、地球温暖化防止に大きく貢献するものであることから、県民総ぐるみで自転車通勤を推進していくため、職場の同僚等と3人一組のチームを編成し、一緒に励み楽しみながら自転車通勤に挑戦する「えひめツーキニストクラブ」を発足し、他の参加チームともホームページ上で削減したCO2量等を競い合ったり情報交換等することにより、更なるツーキニストのネットワークを広げ、自転車を活用したライフスタイルへの転換を促進するとともに、運輸部門からのCO2排出量の削減を図る。	愛媛県 環境政策課	○愛媛県の自転車を利用した温暖化対策として、広く情報発信をお願いしたい。
No.4	フクちゃんエコ風鈴づくりと風鈴電車走行事業 素焼きの風鈴に、こどもたちが自由に絵付けをし、短冊に「ぼくの・わたしのエコ宣言」を書き独自の「エコ風鈴」を作ってもらい、節電や省エネ等の環境学習の場とする。 ・電気を使わずに涼む「風鈴」に、こどもたちが絵付けをしたり、短冊に「ぼくの・わたしのエコ宣言」を書き独自の「エコ風鈴」を作ること、省エネや節電について楽しく学んでもらう。 ・作った「エコ風鈴」をはりまや橋観光バスターミナルに飾ることで、風鈴を見た人への環境啓発やバスターミナルの活性化にもつなげる。 ・「エコ風鈴」を冷房設備のない公共交通機関(路面電車)に飾り、乗客に「涼」を届けるとともに、エコ風鈴を通して環境啓発をする。 期間 平成28年6月5日(日)～8月24日(水)	高知市	○イベント等における後援名義、募集のための周知・呼びかけ
No.5	きょうエコプロジェクト 徳島新聞紙上を中心に、エコ意識の啓発を推進する。 まず、夏休み期間に徳島県教育委員会の協力のもとで、徳島県下の児童から環境に関する標語を募集し、投稿された標語から100点ほどをピックアップし、徳島新聞紙上に掲載する。 また、冬には徳島県の協力のもとで環境に関するクイズを紙面に掲載し、応募者から抽選でエコバッグをプレゼントする。 立休事業として、平成29年3月に徳島県・NPO環境首都とくしま創造センターと共同で、環境学習フォーラムを実施。 フォーラムでは、基調講演のほか、県下の小中高校による環境学習の成果発表も行い。	徳島新聞社	○イベント等における後援名義、募集のための周知・呼びかけ